【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和1年7月4日(2019.7.4)

【公開番号】特開2017-222771(P2017-222771A)
【公開日】平成29年12月21日(2017.12.21)
【年通号数】公開・登録公報2017-049
【出願番号】特願2016-118464(P2016-118464)
【国際特許分類】
Ｃ０９Ｄ　4/02　(2006.01)
Ｂ０５Ｄ　7/00　(2006.01)
Ｂ０５Ｄ　7/24　(2006.01)
Ｂ０５Ｄ　3/06　(2006.01)
Ｂ０５Ｄ　5/00　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/18　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/30　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ　7/40　(2018.01)
Ｃ０９Ｄ　5/14　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　7/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０９Ｄ　4/02
Ｂ０５Ｄ　7/00　Ａ
Ｂ０５Ｄ　7/24　３０１Ｔ
Ｂ０５Ｄ　3/06　１０１Ｂ
Ｂ０５Ｄ　5/00　Ｚ
Ｂ３２Ｂ　27/18　Ｆ
Ｂ３２Ｂ　27/30　Ａ
Ｃ０９Ｄ　7/12
Ｃ０９Ｄ　5/14
Ｃ０８Ｊ　7/04　ＣＥＲＵ
Ｃ０８Ｊ　7/04　ＣＥＺ

【手続補正書】
【提出日】令和1年5月30日(2019.5.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
（Ａ）多官能（メタ）アクリレート；及び、
（Ｂ）ハロゲン元素含有スルホン系抗菌剤；
を含む活性エネルギー線硬化性樹脂組成物からなり、
黄色ぶどう球菌について、ＪＩＳ Ｚ２８０１：２０１０に従い、温度２３℃において測定した抗菌活性値が２以上であるハードコート。

【請求項２】
上記成分（Ｂ）が、ジヨードメチル‐ｐ‐トリルスルホン、及び２，３，５，６テトラクロロ‐４‐メチルスルホニルピリジンからなる群から選択される１種以上を含む請求項１

に記載のハードコート。

【請求項３】
上記活性エネルギー線硬化性樹脂組成物が更に（Ｃ）光重合開始剤を含む請求項１又は２に記載のハードコート。

【請求項４】
上記成分（Ｃ）が（Ｃ１）アシルフォスフィンオキサイド系光重合開始剤を含む請求項３に記載のハードコート。

【請求項５】
上記成分（Ｃ）が、
（Ｃ１）アシルフォスフィンオキサイド系光重合開始剤　２０～６０質量％と
（Ｃ２）アセトフェノン系光重合開始剤　８０～２０質量％からなり、
ここで上記成分（Ｃ１）と上記成分（Ｃ２）との和は１００質量％である
請求項４に記載のハードコート。

【請求項６】
上記活性エネルギー線硬化性樹脂組成物が更に（Ｄ）紫外線吸収剤を含む請求項１～５の何れか１項に記載のハードコート。

【請求項７】
請求項１～６の何れか１項に記載のハードコートを含む物品。

【請求項８】
請求項１～６の何れか１項に記載のハードコートを含む化粧シート。

【請求項９】
請求項８に記載の化粧シートを含む物品。

【請求項１０】
（１）フィルム基材の少なくとも一方の面の上に、活性エネルギー線硬化性樹脂組成物であって抗菌剤を含むもののウェット塗膜を形成する工程；
（２）上記工程（１）で得たウェット塗膜を予備乾燥し、乾燥塗膜にする工程；
（３）上記工程（２）で得た乾燥塗膜の面の上に、活性エネルギー線透過性フィルムを重ね、仮貼りする工程；及び、
（４）上記工程（３）で得た積層体に活性エネルギー線を照射し、上記乾燥塗膜を硬化させる工程；
を含む、
活性エネルギー線硬化性樹脂組成物からなるハードコートであって、
黄色ぶどう球菌について、ＪＩＳ Ｚ２８０１：２０１０に従い、温度２３℃において測定した抗菌活性値が２以上であるハードコートの製造方法。

【請求項１１】
（１’）活性エネルギー線透過性フィルムの少なくとも一方の面の上に、活性エネルギー線硬化性樹脂組成物のであって抗菌剤を含むもののウェット塗膜を形成する工程；
（２’）上記工程（１’）で得たウェット塗膜を予備乾燥し、乾燥塗膜にする工程；
（３’）上記工程（２’）で得た乾燥塗膜の面の上に、フィルム基材を重ね、仮貼りする工程；及び、
（４’）上記工程（３’）で得た積層体に活性エネルギー線を照射し、上記乾燥塗膜を硬

化させる工程；
を含む、
活性エネルギー線硬化性樹脂組成物からなるハードコートであって、
黄色ぶどう球菌について、ＪＩＳ Ｚ２８０１：２０１０に従い、温度２３℃において測定した抗菌活性値が２以上であるハードコートの製造方法。

【請求項１２】
請求項１～６の何れか１項に記載のハードコートの製造方法であって、
請求項１０又は請求項１１に記載の上記製造方法。